

図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議(第7回)

公立図書館に求められる人材育成の現状と 今後の充実に向けて

曾木 聡子

(公益社団法人日本図書館協会)



1 公立図書館の司書・司書補の現状

（注意）根拠とした数値について

ここでは毎年調査した結果の『日本の図書館 統計と名簿』をもとにしています。

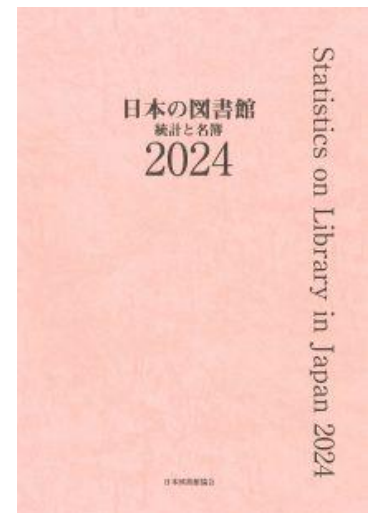
職員数は各年の4月1日現在。

「正規職員」＝専任職員と兼任職員。

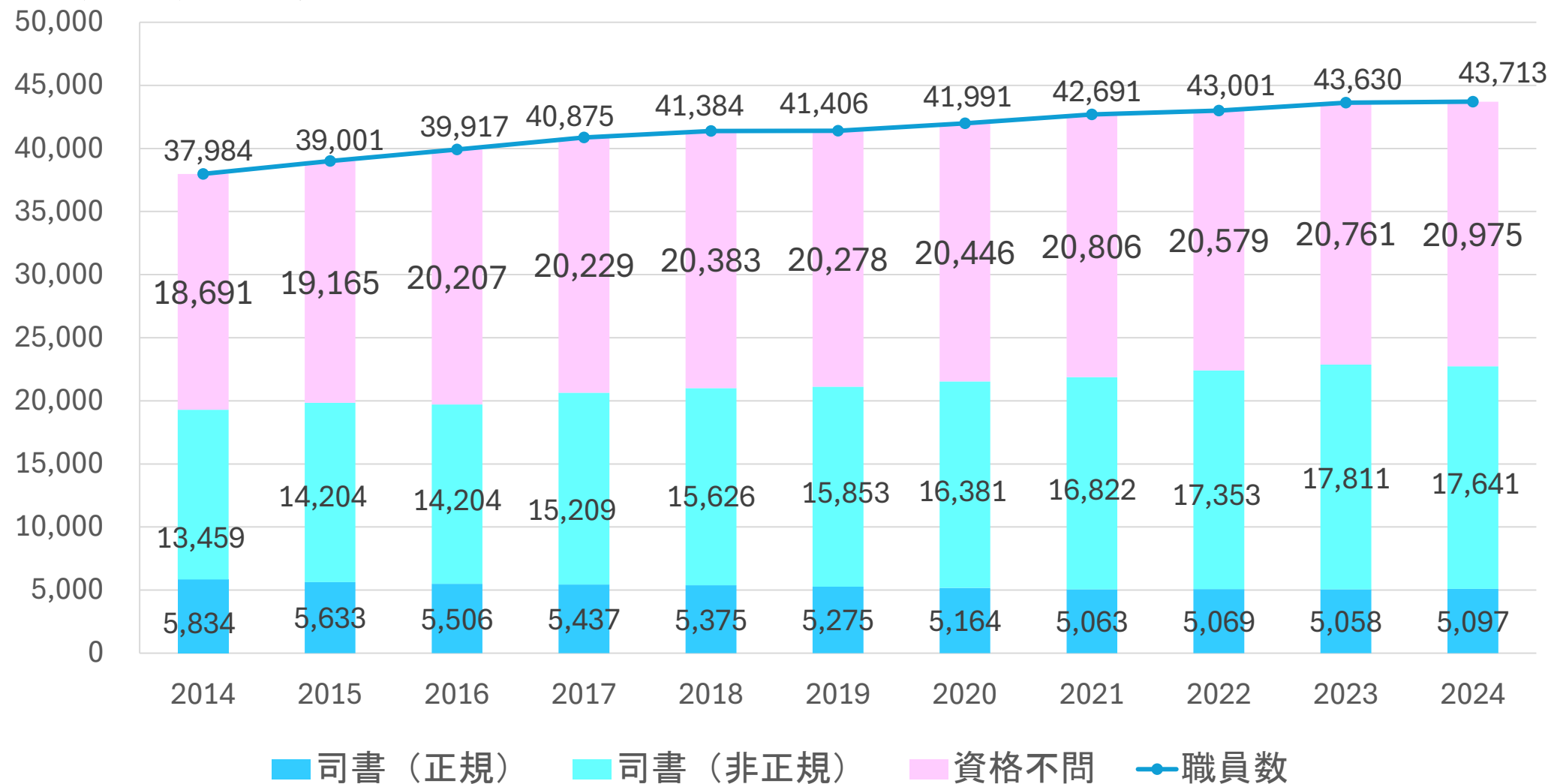
「非正規職員」＝非常勤職員、臨時職員、委託・派遣職員
（指定管理者の職員含む）

＊ 年間労働時間1500時間以上を1人と換算

「文部科学省 社会教育統計」とは若干誤差が出る場合があります。

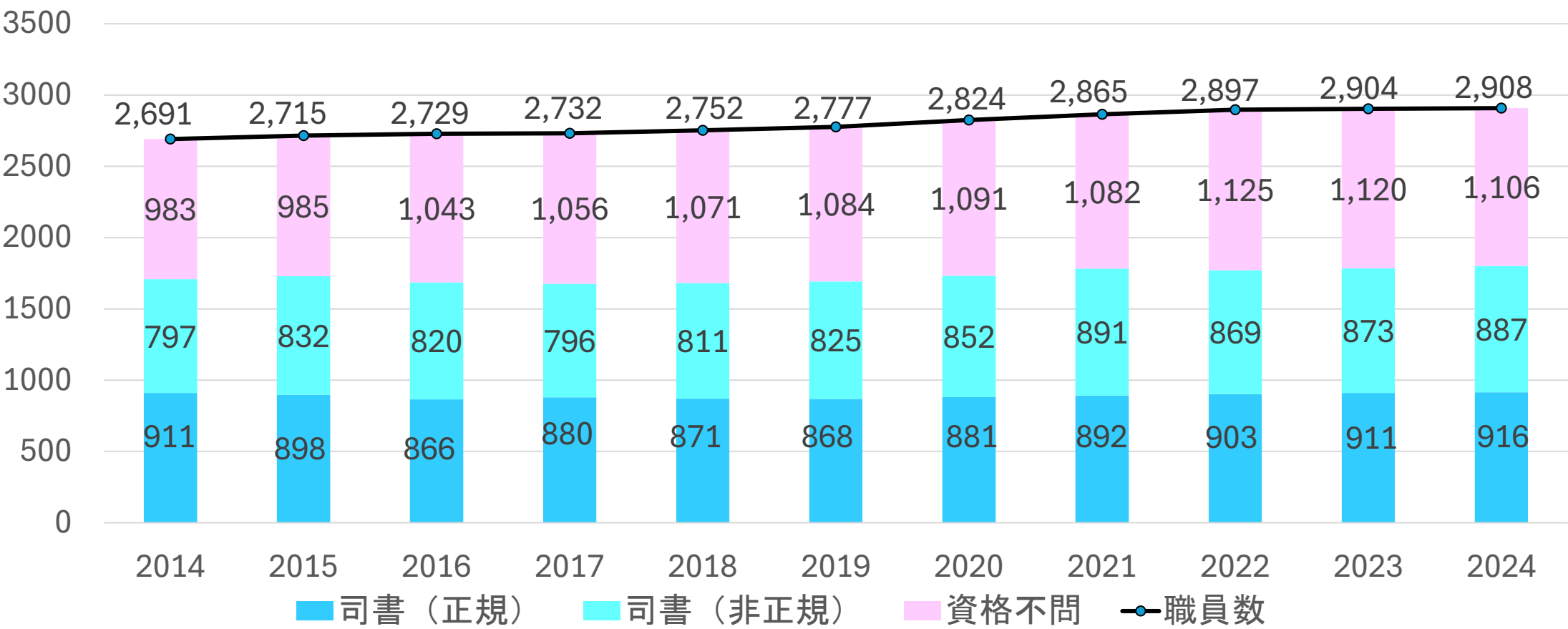


職員数の変化と司書の配置状況 (単位：人)



(『日本の図書館 統計と名簿』より)

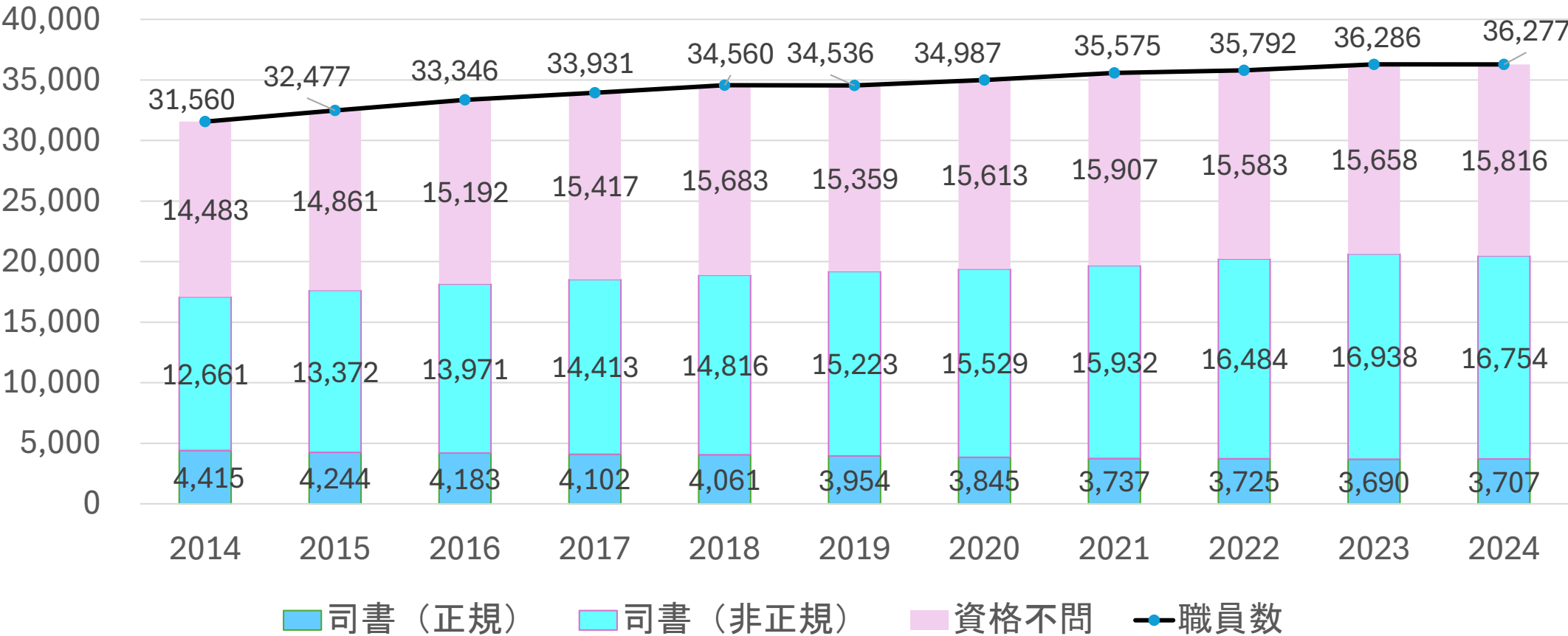
<司書>正規・非正規の動向と配置率（都道府県立）（単位：人）



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
司書配置率	63%	64%	62%	61%	61%	61%	61%	62%	61%	61%	62%

（『日本の図書館 統計と名簿』より）

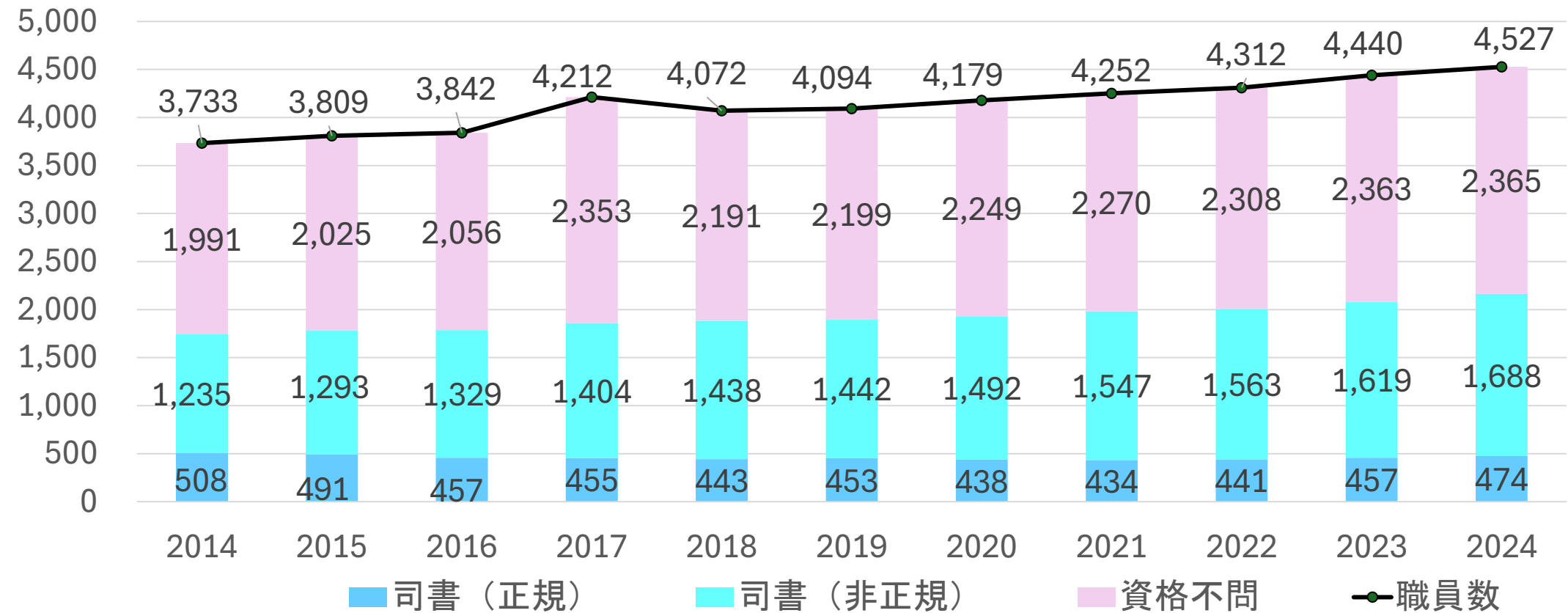
<司書>正規・非正規の動向と配置率（市区立）（単位：人）



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
司書配置率	54%	54%	54%	55%	55%	56%	55%	55%	56%	57%	56%

（『日本の図書館 統計と名簿』より）

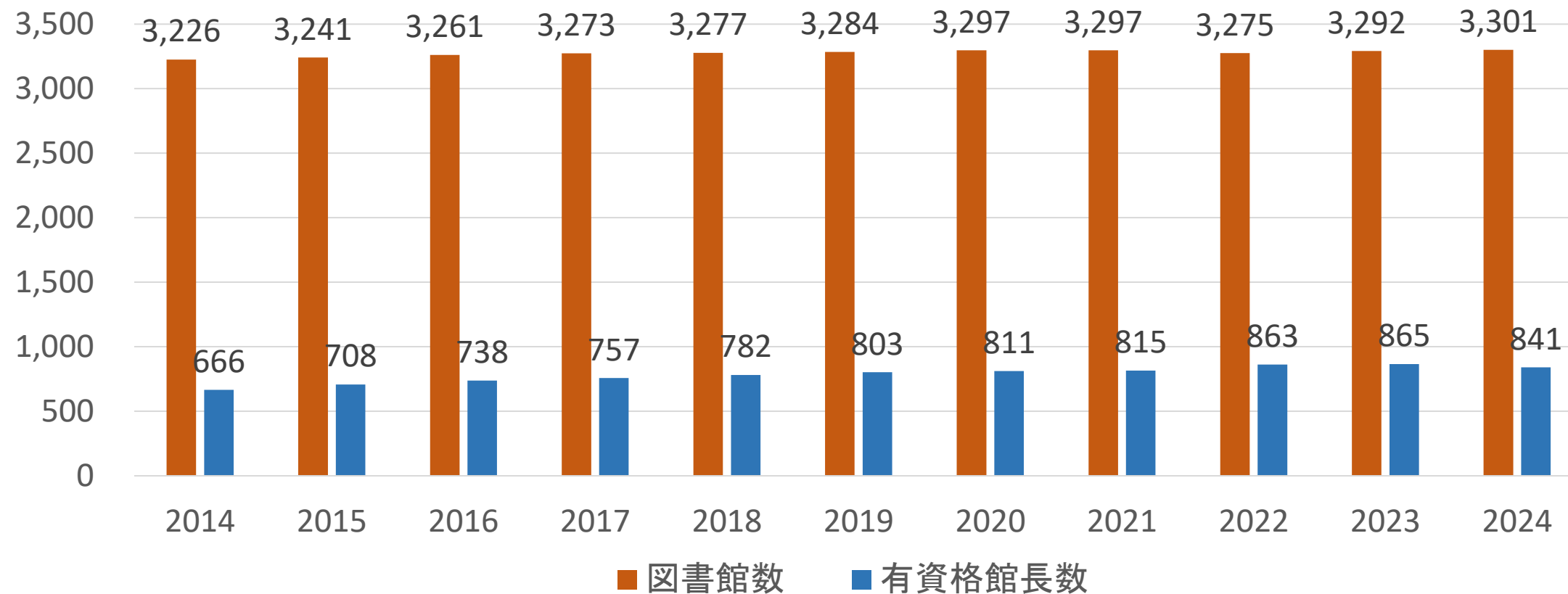
<司書>正規・非正規の動向と配置率（町村立）（単位：人）



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
司書配置率	47%	47%	46%	44%	46%	46%	46%	47%	46%	47%	48%

（『日本の図書館 統計と名簿』より）

図書館長の有資格率



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
有資格率	21%	22%	23%	23%	24%	24%	25%	25%	26%	26%	25%

(『日本の図書館 統計と名簿』より)

2 司書・司書補に求められる資質、専門性、 役割とは

司書はどう見られているか

- 図書館＝図書（雑誌、新聞、視聴覚資料）を借りる、読むところ。
- 本を「貸す」という仕事は「慣れればできる」。
すなわち「誰でもできる」

司書の専門性？

図書館の必要性が認知されていない。

司書の役割

図書館の専門的業務

- 「読書」「学習」「調査研究」への支援



「図書館」が知識と情報の拠点であることを伝える

- 地域との連携、情報発信、誰もが利用できる場づくり

司書に求められる資質、専門性

「情報」と「人」をつなぐ

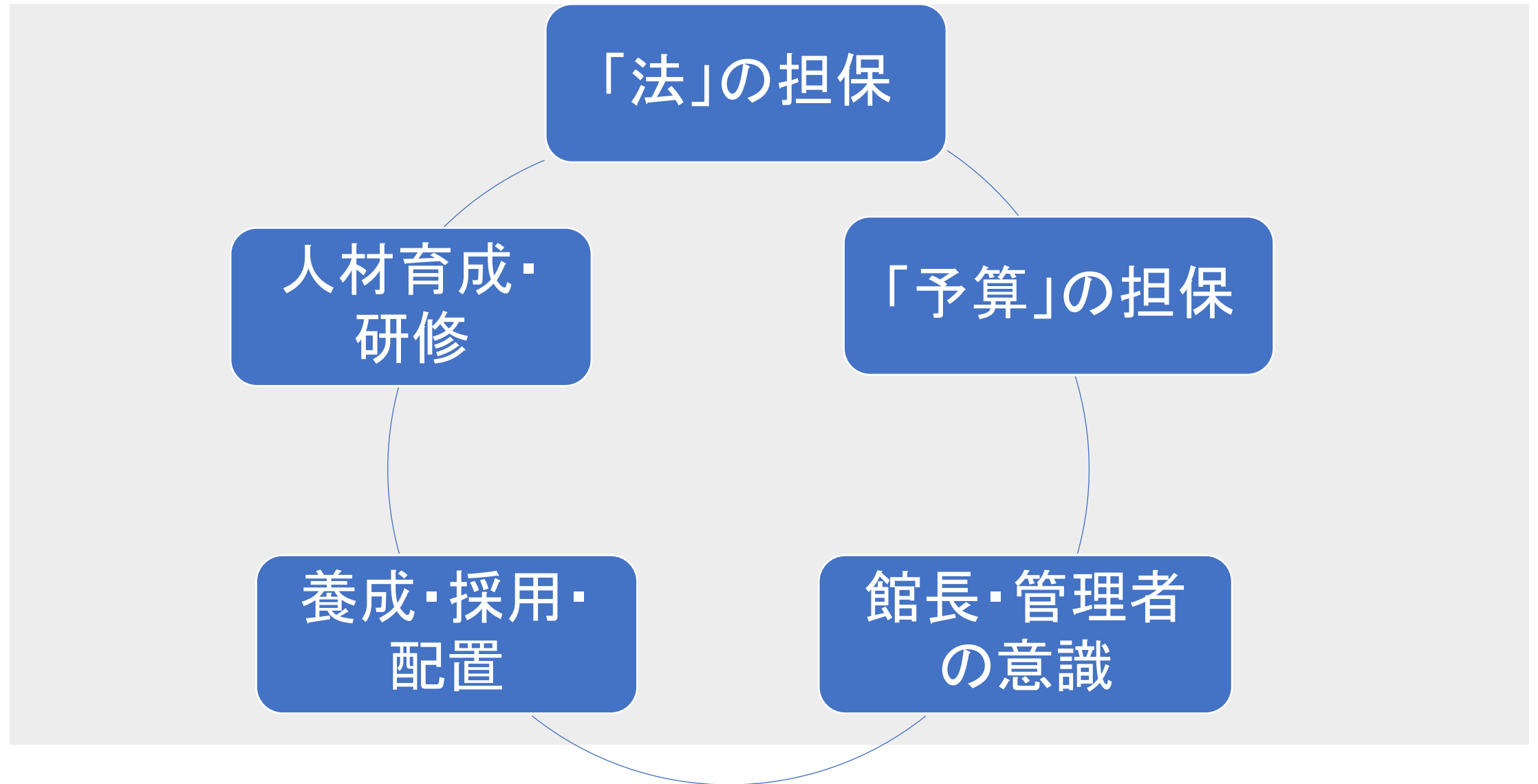
- ・読書・文化・社会への好奇心
- ・コミュニケーションで地域を知り、課題を見つける
- ・情報を正しく判断する支援をする

「情報」と「専門知識」をつなぐ

- ・図書・情報に関する体系的な知識を得る
- ・専門知識と必要な技術を合わせ活かす

3 司書・司書補の配置の充実に向けて

配置の充実のために必要なこと



必要不可欠な要素

「法」の担保

「置かねばならない」>
「努める」「置くことができる」

努力義務は
優先度が低い

「予算」の担保

優先度の低い事業に
予算はつかない

図書館は住民にとって
必要な施設である
司書の存在意義を示す

図書館長・管理者の意識

公の施設を
運営

組織としての
「図書館」

図書館の
役割

組織を継続

年齢構成

経験・研鑽

計画的な採用

図書館を知る

司書が
館長になる

館長・管理者が
司書資格を得る

司書の養成・採用・配置

養成

司書講習
司書養成課程

司書課程の
見直し

採用

職員の高齢化
非正規問題

計画的な採用

配置

年齢・経験

図書館の価値を
上げる人材育成

研修の実施状況

自館＋他機関での研修の実施及び参加状況

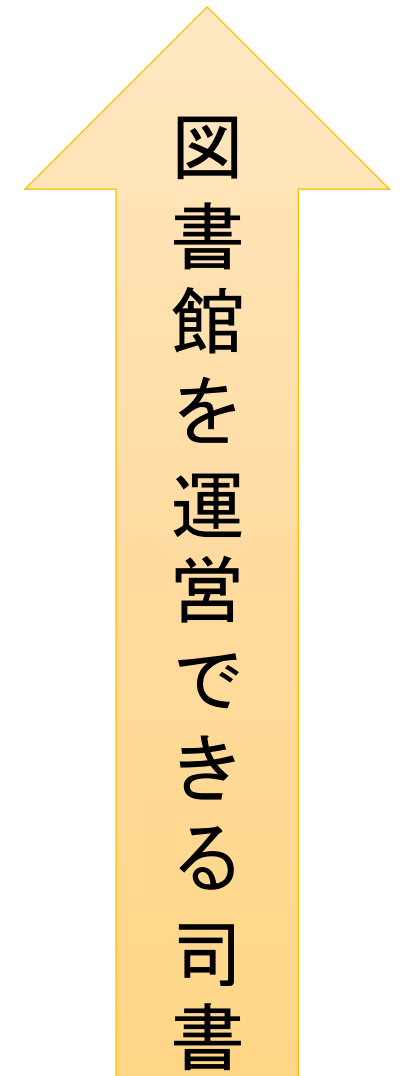
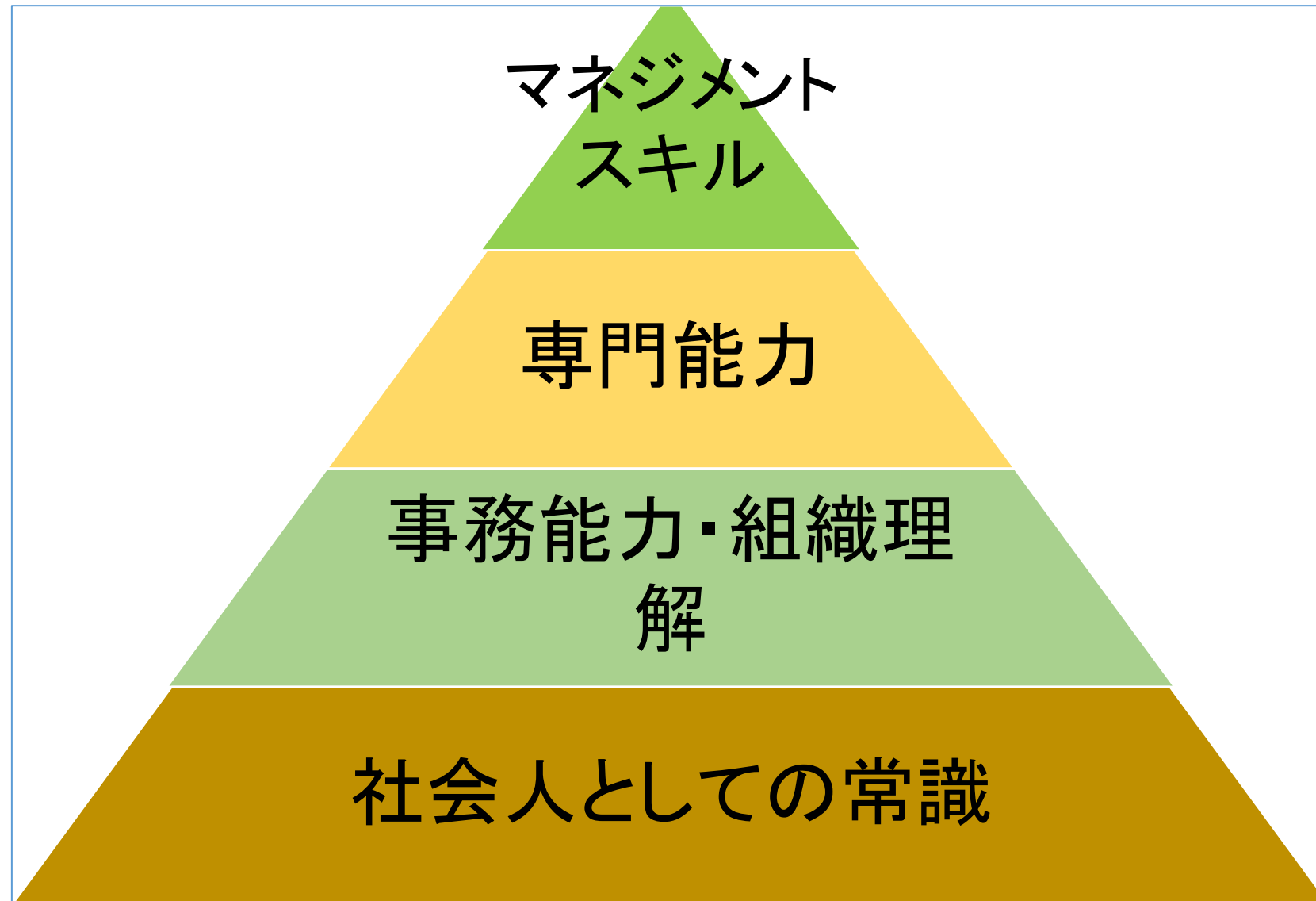
	図書館数	研修実施・参加	研修実施率
2014	3,313	2,906	88%
2017	3,341	2,988	89%
2020	3,377	2,843	84%

自館での研修実績

	図書館数	自館で研修	本館（分館のみ）	研修実施率
2014	3,313	1,161	838	60%
2017	3,341	1,262	947	66%
2020	3,377	1,324	814	63%

（文部科学省 社会教育統計より）

司書の専門性を向上させる



司書が続けていくこと～専門性を向上させる～

Jump

認定司書

次世代へ
つなぐ

Step

交流・協力

専門外の
学び

研修参加

資格

Hop

OJT

経験

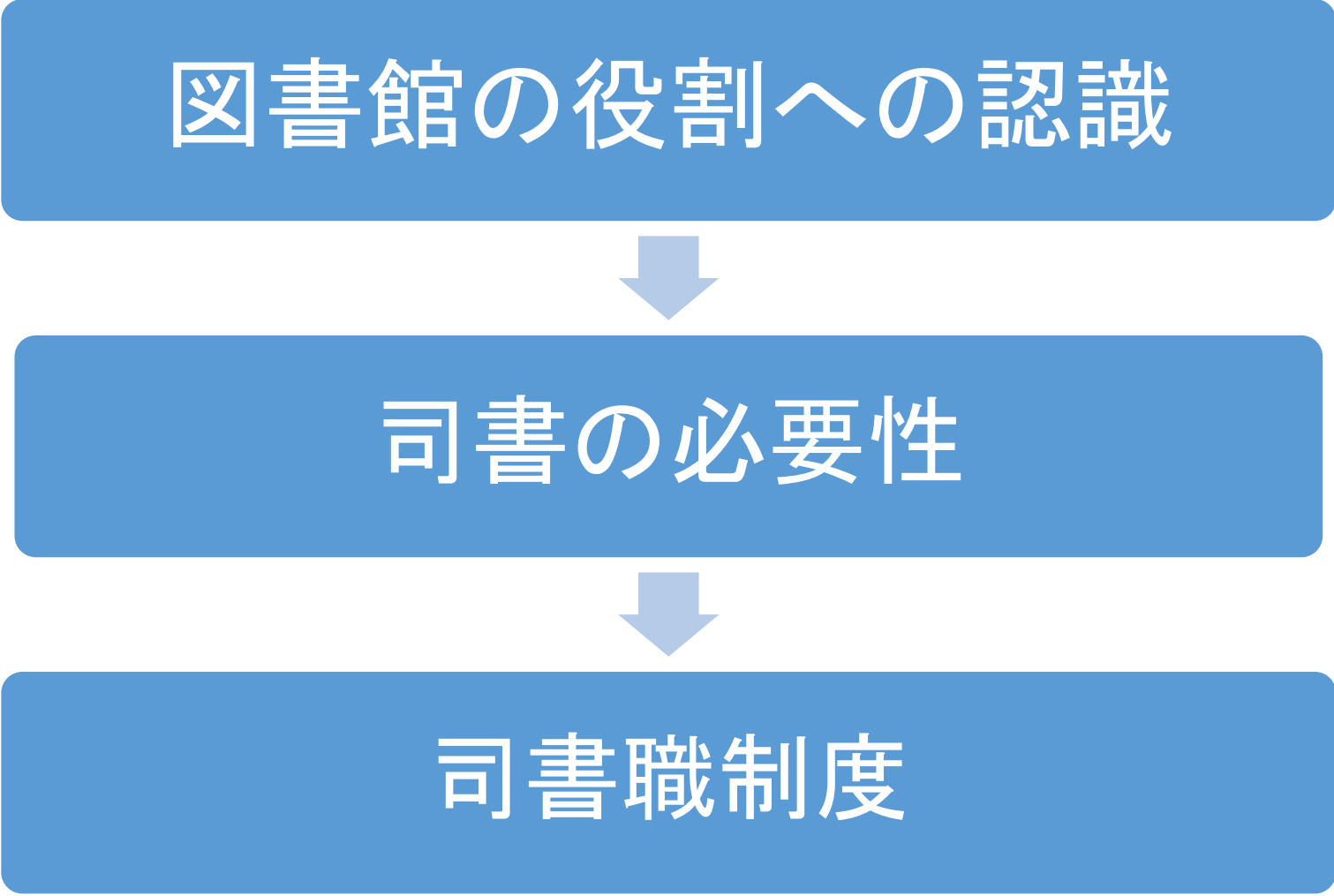
「人材育成の充実」に対する課題

○図書館勤務経験の継続の難しさ

○研修に参加できる環境

人材育成の充実に向けて

図書館の役割への認識



```
graph TD; A[図書館の役割への認識] --> B[司書の必要性]; B --> C[司書職制度];
```

司書の必要性

司書職制度

図書館に求められる人材の育成と今後の充実に 向けて

公立図書館と学校図書館の連携は今後ますます必要

一方を改善・充実させるだけでは、図書館が変わる

ことにつながらない。

図書館と学校図書館の運営の充実のために

「いつでも開いている学校図書館へ
一学校司書の配置等に関する提言」



「学校司書の配置・処遇等について（見解）」



日本図書館協会 Webサイト



2025 年 9 月 18 日

いつでも開いている学校図書館へ
—学校司書の配置等に関する提言—

公益社団法人日本図書館協会

学校図書館には学校における「学習センター」「情報センター」「読書センター」の3つの役割があります。学習のための資料と情報そして学習の場を提供することで学校教育の充実に資するのみならず、児童・生徒が自発的かつ自由に多様な本に触れることによって、豊かな感性と知識探究の意欲を育てます。加えて、近年では、児童・生徒にとっての学校でのオアシスであることが求められる事例が増えています。

学校図書館が、上記の役割を発揮するための第一の必須要件は、専任の学校司書が常時勤務している「いつでも開いている図書館」です。しかるに、文部科学省の調査では、常勤職員及びフルタイムの職員が配置されているのは17.1%であり、多くの学校では、学校司書が限定された曜日、限定された時間しか配置されていないため、多くの時間は学校図書館が開いていないのが現状です（注1）。また、その学校の事情や教職員、児童・生徒をよく知る学校司書が必要ですが、複数人での交代制や複数校の掛け持ちも多く、さらには学校司書のコンピュータの活用やデジタル教材へのアクセスに制限があるなど、児童・生徒の学習、読書環境に不平等、格差が生まれる要因となっています。

日本図書館協会は学校図書館の実態に鑑み、「いつでも開いている学校図書館」の実現のため以下の提言を発信することで、広く国民の皆さまとりわけ児童・生徒の保護者の皆さま、学校教育関係者の皆さま、自治体教育委員会等ご関係の皆さま、並びに国会議員各位に、この問題に関する認識を共有していただきたいと訴えます。

提 言

1. すべての学校に、フルタイムで一校専任の学校司書を配置すること
2. 学校司書を学校教育に関わる職員の一員として処遇すること
3. 公的な研修を制度化するなど、学校司書の資質向上を保障すること
4. これらを可能とするため、学校司書の法的位置づけを明確にする学校図書館法の条文改正を行うこと

なお、本提言は、「学校司書の配置・処遇等について（見解）」（注2）などを参考としています。

注1：「令和5年度公立学校における学校司書の配置状況に関する調査」結果（概要）では、学校司書の任用の状況において、常勤職員 13.3%、会計年度任用職員（フルタイム）3.8%となっている。

また、学校司書の配置状況では、一校専任の割合は、高等学校・中等教育学校（後期）95.4%、中学校・義務教育学校（後期）・中等教育学校（前期）55.6%、小学校・義務教育学校（前期）66.6%となっている。

https://www.mext.go.jp/content/20250617-mxt_chisui01-100002176_1.pdf

注2：「学校司書の配置・処遇等について（見解）」日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会・学校図書館部会

https://www.jla.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/09/sl_kenkai.pdf